

東京都立田無工業高等学校

技能検定を目標にしたハイレベルな実践教育

工業高校における技能検定への取り組み

3級技能検定は、平成5年度に新設されました。厚生労働省では、3級技能検定の実施職種を順次拡大しており、若年者の技能離れの防止、技能労働への定着を通して、将来のモノづくりを担う若年技能者を育成するとともに、若年者の職業意識の啓発を図り、職業に関する適性の早期発見、就業についての動機付け、雇用機会の拡大、キャリア形成に取り組んでいけるよう支援していくこととしています。

専門高校の建築科では、建築大工、とび、配管、内装仕上げ施工など7職種で受検が認められており、3級合格者は、在学中であっても2級の受検資格が与えられます。

現在まで多数の技能検定合格者を輩出してきた都立田無工業高校は、実践的な技能教育で知られています。

田無工業高校は昭和37年創立。東京都の北西部に位置し、武蔵野の豊かな自然に囲まれたゆとりある環境の中にあります。機械科、建築科、都市工学科を有し、全校の生徒数は460名ほど。各学年各クラス1〜2クラスと、生徒一人ひとりの能力を伸ばすきめ細かい少人数教育を実践しています。卒業生の約6割が就職しています。

当校では、指導の重点項目として「資格取得者、技能検定の合格者数を増やすための指導を徹底する」と掲げているとおり、毎年数十名の生徒が技能検定を受検し、合格しています。建築科では、とび作業3級で19年度に30名、20年度に19名の生徒が合格、2級でも19年度に1名、20年度に2名の合格者が出ています。

「技能検定受検は生徒の任意です。1年間のテーマを生徒が自分で選ぶ『課題研究』（週3時間）科目の時間に技能検定の実技試験対策ができます。それに加えて放課後の『建築同好会』としての部活動で技能検定に対応した実習が行えるようになっていきます」（建築科・丸山悟教諭）

今年（2010年）は25名（2年生）の生徒がとび3級に、3名（3年生の3級合格者）がとび2級に挑戦する予定です。

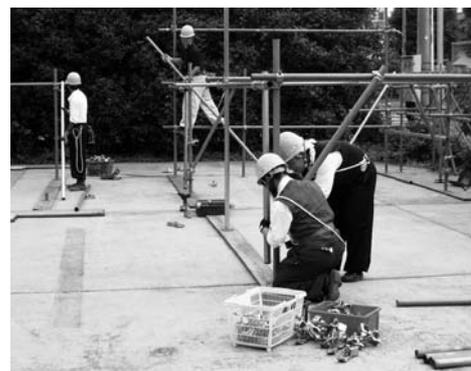
「受検する生徒は、実技試験にはほ

んど合格しますね。学科試験については過去に出題された問題にあらかじめ当たっておき勉強する必要があります」

広い敷地を生かし、当校の施設・設備は非常に充実しています。屋外実習場には同時に4人が作業できる足場材料とスペースを完備。設備は少しずつ揃えてきたとのことですが、実習によって技能を学ぶ生徒たちにとっては恵まれた環境と言えます。

実技試験の課題への対策として、指導教員が課題の図面を見て工程マニュアルを作成、指導システムを確立し、授業で段階を踏んで指導していきます。生徒は手順を頭に入れ、自然に作業の動きができるようにし、試験の2カ月ほど前からタイム計測しながら実習を行います。

「技能検定は、授業でやっていることがどこまで習得できているのかがレベルとして明確にわかる、という点が良いですね。また、学習に具体的な目標として設定することができる。受検するのはのちと『大工になりたい』と



3年生の課題研究「とび作業」の授業

いつて入学してきた生徒や『せっかくなのでこの高校に入ったので資格をとってみたい』という生徒などいろいろです。ただ、合格すると明らかに本人にとって自信になります」（丸山教諭）

また、3年生の課題研究「とび作業」を指導する建築科・工藤一俊教諭は、生徒にとって技能検定を受検すること自体が勉強になる、といいます。

「周りの受検者は社会人ばかり、言い換えればプロの職人さんばかりですから、プロの技を間近で見ることができると、大変刺激になるわけです。また、高校時に、2級なり3級の資格を取っている人は、会社に入った時に、取っていない他の新入社員とはスタート地点が違います。基礎ができているからです。そして2・3級を取った人は当然1級を目指します。目的意識も芽生えてきますし成長も著しいのです。企業の方もそういった点はわかって採用してくださっていると思います」

資格手当が設けられている企業では新規採用者にも支給されます。田無工業高校の技能検定合格者への評価は確立しているようです。



建築科・工藤一俊教諭

